

平成25年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成25年1月8日

礼文町長 小野 徹

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成 25 年の新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しい中、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、日ごろから町政の推進にあたり大変温かいご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げます次第でございます。

2013 年、平成 25 年は、巳年であり、干支は「癸巳（みずのと・み）」と言いまして、「草木の生長が極限に達し、次の生命が作り始められる時期」とされており、「巳年」の「巳」は実を結ぶ「実」にも掛けられて、播いた種が実を結ぶ年、万物が実を結ぶ年とも云われています。

私はこれを「苦しい時期が終わって、物事が良い方向に向かう」という風にとらえています。

これまでのいろいろなことが実を結ぶことを願い、今年も、町の振興発展のため更に全力を傾けてまいりますので、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。

本日受賞された皆様方は、多年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって郷土礼文町の発展のため献身的にそ

の職務に精励され、地方自治や住民自治の進展、交通安全運動の促進、また、文化の振興に尽くされ、地域を災害や火災から守り、安心安全な地域づくりと住民の福祉の向上に尽力されるなど「ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれてこられた」方々でございます。

さらに、本日は永年にわたって教育委員長を務められ、昨年 10 月に退任されました水越秀見前教育委員長には、本町の小中高連携教育に格別なるご指導を賜りましたことに感謝状を贈呈させていただきました。

「子供は地域の宝」と云われますが、そのとおりに、島の子供たちが小・中・高連携教育の中で「ふるさとに学ぶ」学習に一生懸命取り組むことのできる環境づくりにご尽力されたご功績に対し、退任にあたって感謝を申し上げる次第でございます。

新しい年の始まりにあたり、本町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆様にあらためて衷心より深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、今後も、礼文町発展のために、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、アメリカ、ロシア、台湾、韓国、フランスなどで大統領・総統選挙が行われ、中国では代表が入れ替わる党大会が行われるなど、世界の政治、経済に大きな影響を与える複数の国でトップが変わる節目の年となりました。

わが国においても、年末に衆議院の解散総選挙があり、自民党が3年3カ月ぶりに政権に復帰し、第二次安倍内閣が発足しました。強い経済再生を最優先課題に掲げ、デフレ脱却のため「大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略」という三本の矢で経済政策を力強く進めるとしています。

このため、直ちに10兆円ともいわれる大型補正予算を編成し、これに続く新年度の本予算を一体的に行う「15か月予算」として切れ目のない経済対策を行う方針とのことであります。

本町としても、地域経済活性化のため、これら補正予算には積極的に対応して地域のインフラ等の整備を進めたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。

また、去年は日韓両国が領有権を主張する竹島問題、尖閣諸島の国有化に反発した反日デモによる日中関係の摩擦など憂慮すべき事件が起きました。尖閣問題や竹島問題に象徴されるように国境に位置する離島の保全と振興への取り組みが必要となっているのであります。

こうした情勢の中、今年4月から、離島振興法が10年延長されるわけではありますが、一番大きな改正は、「離島の役割」が大きく取り上げられたことであり、尖閣問題や竹島問題に象徴されるように国境に位置する離島の保全と振興への取り組みに対し国の責任のもとに特段の支援が行われることとなります。

これ以上無人島をつくらないようにすること、並びに「定住の促進」を図って離島の人口がこれ以上著しく減少しないようにすることが重要な国の施策となったことであります。

離島には四方を海に囲まれていることによる様々なハンディがあります。

これが「他の地域と比較して厳しい自然的社会的条件」であり、これを解消する手段として、例えば「人の往来にかかる経費や生活物資の輸送に要する費用が他の地域と比較して多額にかかる状況であるため、この状況を改善すること及び「産業基盤や生活環境の格差を是正する」ことを掲げ、最終的には「地域間の交流」を促進することによって「離島に住み続けることを促進」しようとするものです。今後、私たちが離島で快適な生活や安定した就労の場を確保し、離島に住み続けることができるよう、きめ細やかな対策を講じてまいりたいと考えているところでございます。

さて、本町の水産に目を向けますと、昨年の両漁協合わせた水揚金額は、一昨年の29億7千百万円をさらに上回って、4年ぶりに30億円を超え、32億2千5百万円と見込まれておりまして、大変うれしく思っております。

漁船漁業においては、本町の主要魚種であるホッケとタラは水揚量、金額ともに好調で、前年を大幅に上回りました。

根付漁業では、ウニは水揚量、金額ともに横ばいでしたが、天然コンブの水揚量は倍増し、金額では3倍の増となっております。

しかしながら、漁業就業者の高齢化が年々進んでいるなか、漁業所得にまだまだ不安定要素が多い現状において、次代を担う若手の育成やつくり育てる漁業、付加価値向上対策など、一層の漁業経営の近代化と生産性の安定を図り、安心して漁業に従事できる環境づくりが必要と思います。特に新年度においては、国に要望してきた新たな漁業後継者対策として「漁業青年就業準備給付金」制度が創設されます。私はいつも「がんばる人が幸せになれる社会」でありたいと願っており、がんばる人を応援し、離島の漁業を守り、元気で活気に満ちた町づくりのため、この制度を有効に活用した若い漁業者への支援対策を進めたいと考えております。

また、昨年から取り組んでいる「礼文島の新たな挑戦プロジェクト」は第2ステージにはいりました。昨年7月に、「海産物に付加価値をつけることは町の活性化につながり、雇用の場の創出が期待できる。早期に町と民間が協力して付加価値向上に取り組むべき。」との報告をいただきました。私は、礼文島の海産物に付加価値を付けるため、企画から加工、販売までを一貫して行い、雇用の拡大を図る6次産業化をめざそうと昨年12月、町と民間で組織する「礼文町水産加工品開発協議会」を立ち上げました。

今年は、国の制度を活用しながら、官民が一体となって具体的な「礼文ブランド」の製品開発に取り組むこととしています。

将来的には、所謂「漁業の6次産業化」により、礼文島の海産物に付加価値をつけて、若者の雇用の場を確保するための新たなシステムをつくる取組であります。

今後、更なる検証・協議を重ねながら「礼文島が生き残っていくための攻め」の形を創り出し、雇用の場を増やし、町の活性化を図っていきたいと考えていますので、尚一層のご理解とご支援をお願い致します。

さらに、昨年、利尻礼文を舞台にした映画「北のカナリアたち」の礼文島ロケでは、炊き出しや夜間に及んだ撮影へのご協力、また、エキストラ出演にもたくさんの皆様のご協力をいただき心から御礼を申し上げます。

昨年11月3日から全国一斉公開され、礼文島をはじめとする稚内、サロベツ原野、利尻島の雄大な自然が全国のスクリーンに映し出され、大好評をいただいたところです。しかし、観光客の入込は依然伸び悩み、昨年は対前年比3%減の13万3千人と10年連続の減少が見込まれておりまして、こうした厳しい現状を乗り越えるため、礼文島の恵まれた自然環境の活用と積極的な情報発信を展開するとともに、映画「北のカナリアたち」のロケ校舎一帯を「北のカナリア公園」として整備し、観光客の誘致と地域経済への大いなる波及効果を期待しているところです。

また、今年の後半からは利尻島鴛泊港ですでに始まっていますが、稚内利尻礼文航路の「フェリー乗り降りのバリアフリー化」を図るため香深港にもボーディングブリッジ導入に向けた快適な環境づくりを進めてまいります。

さらに、北海道が施工する香深と西海岸元地をつなぐ1.5Kmの「新桃岩トンネル」の掘削工事も、この春から本格的に始まることとなるわけであります。

いよいよ、世の中が、少しずつではありますが、明るい方向に動きだした新しい年の始まりにあたり、私は、多くの先人が苦勞して築いてこられた「ふるさと礼文町」を、より元気な町にして未来に引き継いでいきたい、いや、いかなければならないと考えております。

昨日の仕事始めでも、職員には「巳年の今年、蛇だけが十二支の中で唯一“脱皮”できる干支である。

職員には、巳年にちなんで、古い殻から抜け出して新しく生まれ変わる年にしてほしい。

そのためには“元気”“やる気”“本気”の「みっつの気」で職員が積極的に考え、行動することによってわが町は大きく前進できる。大切なのは「人のために進んで何かをする」ということであり、「人のために進んで行なう職員」になっていただきたい。

元気な礼文づくりのため、職員には今年も忙しい年になるが、さらに笑顔で頑張ってもらいたい。」と訓示をしたところでございます。

ご臨席の皆様にも温かいご理解ご支援をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、長くなりましたが、平成 25 年新春懇談会にあたっての年頭のあいさつといたします。

今年もよろしくお願い致します。

“ご清聴ありがとうございました。”